

# 立川市特定健康診査・後期高齢者医療健康診査 検査項目一覧

区分		具体的な検査項目	説明		
基本項目	特定健康診査	①問診	「現在」または「今まで」の健康状態や生活習慣についてお尋ねします。		
		②身体計測	身長	骨粗鬆症やヘルニアなどの病気によって、身長が低くなることがあります。	
			体重	体重増加は内臓脂肪蓄積につながり、生活習慣病の原因になります。適正体重の維持が病気の予防につながります。	
			BMI	体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)。肥満度をみるための体格指数。高値の場合には肥満傾向、低値の場合にはやせ傾向にあります。	
			腹囲	内臓脂肪の蓄積をチェックします。	
		③尿検査	尿糖	尿に含まれる糖を調べます。(+)反応がでる時には、糖尿病などの病気が疑われます。	
			尿蛋白	尿に含まれるたんぱく質を調べます。腎炎や腎硬化症などで、腎臓の機能が低下していると(+)反応がでます。ただし運動後や発熱などで(+)となることもあります。	
		④血液検査	空腹時血糖		血液中のブドウ糖を調べます。高値の場合、糖尿病などの病気が疑われます。
			HbA1c		過去1～3ヶ月間の血糖の状態を表します。高値のときには糖尿病が疑われます。
			肝機能	AST(GOT)	肝炎、肝硬変、脂肪肝などで高値になります。AST(GOT)は筋肉の障害がおきた場合にも高値になります。
				ALT(GPT)	
				γ-GT(γ-GTP)	
			脂質	中性脂肪	高値の場合、肥満や脂肪肝となり動脈硬化がすすみ、生活習慣病を招く恐れがあります。
		HDLコレステロール		善玉コレステロール。数値が高い方が、動脈硬化になりにくくなります。	
		LDLコレステロール		悪玉コレステロール。数値が高いと動脈硬化を招きます。	
		⑤血圧測定	収縮期	最高血圧	高値の場合、高血圧症となり動脈硬化がすすみ、脳血管障害や心筋梗塞などの要因になります。
			拡張期	最低血圧	
		⑥理学的検査	視診		医師による診察
触診					
打聴診					
立川市の追加健診	必須項目	⑦尿検査	尿潜血	腎炎、尿道炎、膀胱炎などで(+)反応がでます。ただし、激しい運動後や長時間寒さにさらされた後、月経中にも(+)反応がでることがあります。	
		⑧血液検査	総コレステロール		数値が高いと動脈硬化等の生活習慣病を招く恐れがあります。
			腎機能	BUN	高値の場合は腎機能障害、低値の場合は肝機能障害が疑われます。
				クレアチニン	高値の場合、腎機能障害が疑われます。
				尿酸	高値の場合は「高尿酸血症」となり、痛風や腎障害などを発症する恐れがあります。
			血球算定	白血球数	基準値を外れた場合、細菌やウイルスの感染による炎症、骨髄の異常や血液の病気が疑われます。
				血小板数	基準値を外れた場合、骨髄の異常や血液の病気が疑われます。また、出血しやすくなったり、出血が止まりにくくなる症状がでることもあります。
		貧血検査	ヘマトクリット	体中に酸素を運ぶ赤血球数等を調べ、貧血やその他の血液疾患の有無を調べます。	
			血色素量		
			赤血球数		
		⑨血清アルブミン	栄養障害や消化管における吸収障害がわかります。低値の場合、低栄養が疑われます。		
⑩胸部レントゲン	X線写真を撮り、結核、心肥大等を調べます。				
⑪心電図検査	心臓の活動リズム、大きさ、働き、心筋の状態をチェックします。				
⑫眼底検査	眼の奥の血管を調べ動脈硬化等を判断します。				
⑬大腸がん検診	便に血が混ざっていないか調べ、大腸がんの有無を調べます。				

※「特定健康診査」、「必須項目」は全員に実施し、「選択項目」は医師の判断や本人の希望に基づいて実施します。